

研究分野のキーワード：教育課程、教師教育、社会科教育、総合学習、スピーチ活動

研究紹介

一つ目は、授業を通じた教員の在り方の研究です。

学校で毎日、実践されている授業ではどのようなことが起きているのでしょうか？あなたの教室では、何が起きていますか？

先生と子どもの言葉のやり取り、先生の行動、子ども同士のかかわりなど、授業が実践されている間には、様々なことが起きています。それを記録して、分析し、先生や子どもの行動の意味、どうしてそうした行動になったのかなどを考えています。すると、一つ一つの学級では違ったことが起きているのに、ある共通するものごとがわかってきます。先生の教材研究によって子どもが促されていること、ある子どもの発言によって他の子どもの学習が促進されていること、先生の肯定的な発言で子どもの学習意欲が高まったことなどがわかります。こうしたことを授業の事実に基づきながら、現職の先生や学生と考え、教員として成長するにはどうすればいいのかを探っています。

二つ目は、子どもと教員のより良い関係が授業を通して作れないかという研究です。

具体的な教科の授業としては、社会科や総合学習を中心に研究しています。授業が楽しい、授業がていねいな先生は素敵です。では、楽しい授業、ていねいな授業はどのようにして準備され、構成されているのでしょうか。一人一人の先生によって違いがあることだと思いますが、違いを見ていては一人の名人教師を見付けることはできても、多くの教員が成長することはできません。楽しい授業、ていねいな授業の背景には、教員の社会を見る目、学問的な蓄積、授業技術の獲得、子ども理解など、様々な要素があります。これを見出していこうとしています。ある先生の授業を参観して、これはいい実践だと感じたら、その準備や実践の様子をまとめて、他の先生たちに広げています。また、実際に授業を参観して、授業者以外の先生たちも含めて授業研究をしています。こうした一つ一つの授業の積み重ねを、日本の先生たちは繰り返してきて、世界でも例のない授業実践をつくり、授業の中で子どもと先生がつながるよい関係をつくってきました。歴史的にも評価の高いことです。これを、実際の授業と歴史的授業の両方から研究しています。

若い人たちから「どうしたら教師になれますか」と聞かれることがあります。自分から「教師」と名乗ることができる人はいるでしょうか。「教師」は、教えてもらった人が、教えてくれた人に敬意をこめて使う言葉です。職業は、「教員」です。職業としての教員ではなく、教師といわれるようになるために、何が必要なのかを研究しているといってもいいでしょう。

教員の仕事の楽しさ、面白さ、複雑さ、奥深さを考えながら、多くの先生や学生と一緒に共同研究を進めています。